

事実この「青年学級」での試作田を「真剣田」と称したが、そのグループを「一反会」と言つて、親より水田の一反歩を借り受け真剣に稲作の栽培研究に取り組んだ。その中のメンバーである住吉区の山田義勝（現在町会議員）は水稻の実験と実作に研究と努力を積みかさね、遂に日本一の多収穫の栄光に輝き、佐賀段階米作りに異彩を放つたのである。（別記参照）かくて昭和二十九年には村としても多額の予算を計上し、「東与賀実業高等学院」の名称で発足した。

併し折角誕生したこの高等学院も、その後農村青年の人口が都市部へどんどん流入したことで、それに中学校から高等学校への進学率が上昇して、社会状態が急変したために、昭和三十年度を頂点として、漸次に下火となつた。このために昭和三十二年三月三十一日を以て、この実業高等学院は閉鎖されたのである。

三 青年団と婦人会の歩み

(一) 東与賀村青年団の結成

1 青年会の由来と事業

藩政の時代から各村落には、若連中とか何々仲間という青年団があつた。これ等の団体は一種の娯楽機関のよ

うな集まりで、酒食を共にすることが主目的であつた。血気に逸る青年たちは、時に触れ機に乗じて喧騒したり喧嘩して、ただ勝つことだけを誇りとしていた。また若さの吐き口として角力・力石・俵かつぎ等の競技も村落ごとに盛んであつた。町内でも船津八幡社の境内はじめあちこちの神社に、その名残の力石が現存しており、往時のたくましい若者の姿を偲ぶことが出来る。

本村郷土史（大正四年～五年）の中に、当時の青年団・処女会のことと左記の記録がある。

若 者 組

男子年令十五歳位ニナレバ必ず若連中トイフ仲間ニ入り嫁ヲ迎ヘテカラ若連中ヲ退クノデアル 其ノ若連中ノ勢力ハ大シタモノデ兎角ヨキ方ノ主動及制裁トナルコトガ少クシテ悪シキ方向ニ強曳セラルルコトガ多イノデアルソレデ折角学校ニテ築成シタル徳育モ一旦此ノ連中ニ入レバ忽チ打破セラルルデアッタガ若者組ヲ解散シテ青年会ヲ組織シテカラハ漸次改良ノ途ニ向ヒツツアル

こうして人々の声が世論を生み、本県でも佐賀郡内でも青年会設立が各地区で実現されてきた。わが東与賀村でも各村落によつては、既に青年会が誕生していたが、大正天皇御即位大典の記念として、大正四年五月十一日「東与賀村青年会」の発会式を挙げた。この時明治四十年の頃から各字毎に組織していた、中飯盛と下飯盛の二青年会は、成績佳良で上村佐賀郡長より表彰された。次いで大正六年三月には、搦区青年会が成績佳良で佐藤部長より表彰を受けた。

青年会の事業

本会は会則に従つて、各種の事業をやつたが先ず春秋二回の総集会である。この日は全会員が小学校に集合し、名士の講演を聞いたり会員の意見発表、それに余興としての運動競技をした。現在挙行している陸上競技や運動会は、本会が結成以来の伝統行事である。

役員会では中堅青年講習会や未青年者の村補習学校への出席を奨励した。また本会の資金作りのために、大授西南隅の百間堤塘の修復作業をしたり、健康増進のため早起会や小学校庭で国民体操会を開催したり、また佐賀郡連合の徒歩競争選手会等にも参加した。

東与賀村青年会歴代団長名

代	氏名	就任	期間
一	大坪忠節	大正四年五月	一年五カ月
二	野基三郎	〃〃五年九月	五年八カ月
三	富野與一	〃〃一〇月	二年
四	石丸喜代次	〃〃一三・四	一年
五	吉村正一	〃〃一四・四	四年
六	田中秀次	昭和四年四月	一年
七	松尾又六	〃〃五年四月	二年
八	池田種三	〃〃七年四月	二年

2 処女会の結成と規約

東与賀村の処女会は、青年会より多少遅れて、その年の十二月五日に御大典奉祝の記念事業として結成した。その際の「東与賀村処女会会則」の一部を掲載すると、

第一條 本会ハ東与賀村ニ籍ヲ有スル満十三才以上ノ未婚女子ヲ以テ組織シ東与賀村処女会ト名ヅク

第二條 本会ハ左ノ事項ヲ遂行スルヲ以テ目的トスル
 会員相互ノ親睦・風俗矯正・技能ノ練習・女徳ノ修養智識ノ交換・実業ノ奨励

第三條 第二條ノ目的ヲ達センガため左ノ事項ヲ行フ

- 一 知名ノ士ヲ招請シテ講話ヲ聞キ、女徳ノ修養ニ資スルコト
- 二 会員相互ノ知識交換ヲ図ルため会員ノ経歴談ヲナスコト
- 三 実行規約ヲ設ケ漸次改良ヲ計ルコト
- 四 実業奨励ヲナスため左ノ事項ヲ行フコトガアル
 - 1 品評会（蔬菜・生絲・繭・織物・染物・手芸品等）
 - 2 講習会（養蚕・料理・作法・家政・裁縫・染物等）
 - 3 蚕種ノ共同購入
- 五 登山旅行・運動会ヲ催シ体力ノ鍛錬ヲ図ルコト

3 終戦後の青年団活動

終戦後における東与賀村の青年団は佐賀郡内でも他に先がけて早期に結成した。即ち昭和二十一年二月わが国としても郷土東与賀としても、終戦時の虚脱状態からまだ覚めやらぬ時に、祖国の復興と郷土の再建を祈念して、本団の団則を作り力強く発会式を挙げたのである。初代団長は石井幸夫（現在東与賀町農業協同組合長）であり、当時二十六歳の若さであった。

併し当時は何としても物資不足で飢餓寸前の窮乏時代、先ずは食糧増産が緊急であったので、米麦はもちろん南瓜作りに専念して佐賀市内へも売出すのが、団活動の大きい行事であった。次は戦争のために荒れ放題の道路・堀・クリーク等の補修と清掃の社会奉仕活動であった。昭和二十七年にはその模範として、県知事表彰の額と金一封を受領した。

こうして困乱と混乱から漸く平和が訪れ、郷土社会が静穏になると、青年団に盛り上がるのは運動スポーツである。昭和二十三年度より佐賀郡六カ村の対抗競技を各村廻して開催されることになった。その第一回の体育大会は現在の佐賀市本庄小学校庭で挙行されたが、東与賀青年団は全種目に出場し何れも上位の好成績であったが、特にマラソンは優勝したのである。

かくて青年団は着々と組織を充実しつつ、実績を挙げているが、殊に産業部と体育部の活躍は目覚ましいものがあった。

年齢別青年団員数調査（昭和二十九年十一月）

計	性別		年齢
	女	男	
二二	一三	九	一五歳
三一	一九	一二	一六歳
二五	一二	一三	一七歳
五二	二二	三〇	一八歳
四五	三二	一三	一九歳
二七	一三	一四	二〇歳
三四	一六	一八	二一歳
五六	二一	三五	二二歳
四二	二〇	二二	二三歳
二五	一一	一四	二四歳
二一	〇	二一	二五歳
三八〇	一七九	二〇一	合計

(二) 東与賀村婦人会の結成

1 創立・組織・活動等

創立 大正十三年東与賀村主婦会（昭和七年婦人会と改称する）

事務所 東与賀村小学校二置ク

役員 会長 東与賀村長 山田八郎

副会長 同小学校長 中溝作太

支部長 拾八支部毎二支部長各一名

評議員 大字毎二一名ノ評議員計三名
組織 本村内ノ主婦ヲ以テ組織スル会員数七百八拾二名(会費負担者数)
施設・活動

- 1 勤労方面 各部落ニアル神社・社殿及ビ境内ノ掃除・藁細工奨励(競技会二回)
 - 2 教化方面 總會(春秋二回)例会(月一回)各講習会・優良支部ノ視察
 - 3 風紀方面 本村教化団実行規約率先励行神仏礼拝・祝祭日ノ家庭化・時間尊重・会服制定
 - 4 社会方面 托児所開設・奉仕作業
- 会費 年額二百九拾参円九拾四錢也(但シ二百円也村ヨリノ補助金)

2 婦人会の支部活動

——中飯盛支部を中心に——

発会の頃の支部例会

中飯盛支部は昭和八年十月十八日、従来の「主婦会」を改正して、「東与賀村婦人会の支部」として発会した。毎月の例会日には、午後八時青年会場に集合して、初めは藁すば箒の作り方から稽古をした。上手になると製品を集めて当村の小学校へ最初百本を持参し校長先生に寄贈した。藁すばを抜いて貯金したり、各家庭より廃品を回収して売却して利益を貯蓄した。この頃団服を着るようになったが、佐賀市の菊屋に注文し一着三円六十錢だっ

た記録がある。まるで夢のような話である。

戦時中の活動

昭和五く六年の頃から戦時態勢となり、防空演習についての協議をはじめ、砂糖その他物品の共同購入のこと、お盆用の花・花筒・線香等の販売について話し合いや打合せが厳しくなった。特に日常での社会奉仕事業についての協議がいろいろと協議された。

- 1 道路の除草・氏神社境内の手入れ
- 2 青年会場掃除・悟真寺と学校へ雑布寄贈
- 3 苗代田の螟卵採り・菱虫焼を全員でなす
- 4 ボロ集め・古新聞・空瓶集め
- 5 一日の魚代を節約して「克己袋」に入れて基金を作ったり、通行人のために自転車用空気入れを道端にすえつけた。

昭和十一年七月には、大日本国防婦人会が全国的に発足し、各村の支部も全会員が入会金一名につき一円を拠出して入会した。この頃小学校で時局講演会があったり、青年学校の査閲があると、必ず全会員は出席して声援した。ただ聞いたたり声援するだけでなく、婦人会でも防空演習を八幡社の境内でやつたり、出征軍人の祈願祭に必ず出席した。また午後には馬鈴薯の手入れや、髪の毛・茶殻・梅干し等を国民学校を通してその筋へ献納した。

いよいよ戦争が激しくなつて、日常の食品や生活物資は不足するようになり、砂糖の代用品に飴の作り方の講

習会が小学校で開催された。その他作業服の裁ち方・下駄や鼻緒の作り方の講習会にも出席して、自給自足を盛んに奨励された。特に国民の志気を鼓舞するために、県や郡の各町村でも国民精神総動員の総決起大会が開催されて決意を新たにされた。また戦死・傷病兵に出征兵士の遺家族に対する慰問や奉仕が続けられ、近くの佐賀陸軍病院や嬉野海軍病院を訪問したりした。

戦局の進展につれこの村落からも次々に応召兵が出た。中飯盛では応召兵一人について一金二円の御錢別を贈り、全会員が佐賀駅まで御見送りした。また戦勝と武運長久の祈願祭を行い、小城の祇園神社へ日参も続けることにした。国防献金として一金一五円を献納したり、出征兵士には慰問袋を送った。

昭和十二年九月一日、初めて東与賀村立野出身の倉永部隊長戦死の報があった。全会員が同家を弔問し、毎月一日・十五日・二十五日には村落の天満宮にお百度参りをなし、その三日間は晩十二時まで御当夜をした。その後数日して当村落の松永伍長をはじめ数名の戦死者があり、村で戦死者合同葬が小学校の忠魂碑前で挙行された。

昭和十五年になると戦局は愈々拡大して、村や村落から戦病死者が急激に増加したので全村全町に悲痛の色がただよった。併しこの年は紀元二千六百年にあたるので、四月二十九日の天長節を期して、軍用機献納をしたり小学校では乳幼児の体力検診をした。この日の例会後は下飯盛八幡神社の広場で、防空演習をなし各家庭でも練習し稽古した。特に昭和十五年十月三日は、村の農業倉庫に敵機の焼夷弾が落ちたので、婦人会員も出動して、全力を尽くして消火に努めた。その時の恐ろしさと驚きは今だに忘れられない。

終戦までの活躍

昭和十七年十二月八日は、大東亜戦争一周年の記念日である。この日より毎月八日を墓参の日と定め、慰問袋を出征兵士二十二名に発送したり、ヒマの種子を村農会へ持参した。この頃は毎日遺骨が無言の凱旋をなし、次々に村葬が行われた。婦人会ではこれら戦死者宅を弔問しては、英霊の家の標札と御線香を贈って御霊前に捧げた。

昭和十八年の十月例会より、勝ち抜くための誓いの貯金を従前より二十七円五十銭も増加することにした。幹部常会では国防修練指導者の錬成会や総決起大会があつて、必勝の信念と覚悟を新にした。この頃滑空機の寄付金として、各戸より二十銭宛を集め合計八円四十銭を献納した。また村主催で馬耕競技会が開催されたが、男子の応召による不足を来し、女子青年団よりも出場することになって、婦人会員は弁当持参で応援に出掛けた。

冬期になると農閑期を利用して、藁工品（一戸平均七十二俵・合計して二千九百六十俵）の増産もなしとげ、必勝の信念で竹槍突撃訓練に励み、またヒマの栽培とケシの間引やアヘンの供出等にも懸命に努力した。六月になって田植えの時期には、高知式の田植え講習会が県主催で中飯盛と下飯盛で開催された。この頃から出征軍人妻の会が発足し、銃後の護りを堅めると共に、お互いに相互扶助の心構えについても協議懇談がなされた。

昭和十九年に入ると、村葬が頻繁に施行されたが、一方では国防訓練と衛生救急法が実演され、見学と実習のため全員出席した。十二月二日には幹部常会が開かれ協議事項として

- 1 金属類回収（金銀二十点回収・一般金属（銅・鉛・錫）の供出
- 2 座布団綿の回収（火薬用綿を一戸平均二五匁割当て）合計十二貫余り供出

3 ニューギニア皇軍大戦果感謝貯蓄実施のため一人平均十五円の増加を協議した。
愈々大決戦の昭和二十年。一月には特攻隊感謝運動として、一人二十円以上二月二十五日迄の最高貯蓄高も相
当の価額に達した。今月の例会では

- 1 飛行機塔乗員の食糧品として、鶏卵の供出―毎月四十四個を二十二日に供出
- 2 冬期菓工品増産割当―叭二六〇〇枚

右のことと担架訓練の実施を協議決定した。更に(1)救急用具の完備(2)止血法訓練(3)繃帯巻(4)副木(5)人工呼吸(6)救
出法(7)竹槍訓練を毎日午後一時より実施した。かくて戦局は漸次不利となったが、五月十日の婦人会幹部常会で
協議したことは、

- 1 国民義勇隊の組織―十七歳より四十五歳まで
- 2 農繁期保育所・共同炊事の件
- 3 新鋭特攻機二〇〇機献納貯蓄一名二〇円
- 4 隣組救護法の査閲等を申合せた。

※ 三角布の使用法練習・査閲・救急法訓練

こうして八月四日幹部常会を開催したが、

- 1 日本婦人会解散式の件
- 2 母親学級も空襲のため、中途退散して開催不可能。

八月五日は米機による佐賀空襲で、わが村の中村地区も焼夷弾による大火災を起したのであった。

四 現代の社会教育

(一) 教育委員会と公民館活動

1 町教育委員会の発足

昭和二十七年十一月一日、すべての都道府県および市町村に教育委員会が設置され、地方公共団体の教育事務
が、この教育委員会の手によって処理されることになった。しかしその設置単位や委員の選任方法・教育委員会
の地位と性格等についての論議や批判が出て、昭和三十一年三月この制度の大幅な改革が行われ、同年六月「地
方教育行政の組織及び運営に関する法律」が公布され十月一日から施行された。法律の概要は次の通りである。

- (一) 都道府県・市町村のすべてに教育委員会を設置する。
- (二) 教育委員の選任方法については、直接公選制を改め、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命する。
- (三) 都道府県の教育長は文部大臣の、市町村の教育長は都道府県教育委員会の承認を得て、それぞれ教育委員会が任
命する。